

# 児童一人一人のよさや可能性を伸ばすための 望ましい校内体制の在り方

～個別の教育支援計画，個別の指導計画の作成と  
それを効果的に活用するための校内連携を通して～

平泉町立平泉小学校  
教諭 沢田 美香

# 1 はじめに



毛越寺



毛越寺での萩給食



## (1) 学校の概要

- ・ 全校児童 285名
- ・ 通常学級 12学級 (全学年2学級)
- ・ 特別支援学級 2学級 (10名) 自閉症・情緒1学級 (4名)  
知的1学級 (6名)



- 校舎の構造

通常学級はオープンスペース



特別支援学級は仕切りのある部屋



## 2 平泉小学校の特別支援教育のねらいと組織

### (1) ねらい

児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善、克服をはかるための適正な指導、支援を行う。

### (2) 主な校内組織（校内体制）

- ア 校内特別支援委員会
- イ 教育支援委員会
- ウ 支援体制検討会議
- エ ケース会議

ア 校内特別支援委員会（年3回 全教員参加）

4月 昨年度からの引き継ぎに関する共通理解

6月 今年度の共通理解

2月 来年度への引き継ぎに関する共通理解

イ 教育支援委員会（年4回 関係職員参加）

6月 今年度の教育支援の進め方の確認

9月・11月 就学に関わる児童の検討及び確認

2月 来年度の教育的措置の最終確認

ウ 支援体制検討会議（学期始め年3回 担任、支援員）

4月 支援員と担任顔合わせ、支援方法の確認

8月・1月 支援方法の確認

エ ケース会議（関係職員参加）

不定期に必要な応じて開催

### 3 研究について

#### 主題

児童一人一人のよさや可能性を伸ばすための  
望ましい校内体制の在り方

#### 副題

個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と  
それを活用するための校内連携を通して

- 1 個別の教育支援計画の作成と活用
- 2 個別の指導計画の作成と活用

## 4 個別の教育支援計画について

### (1) ねらい

長期的な視点に立ち、他機関との連携を図りながら、一人一人のニーズに対応した支援を行うための計画をたてる

### (2) 対象児童

特別支援学級在籍児童 10名

通常学級在籍児童 4名



# 個別の教育支援計画様式

様式A  
フェイス  
シート

様式A 個別の教育支援計画（フェイスシート） 保護者記入

氏名				
性別	男・女			
生年月日	平成 年 月 日生			
住所	〒 番 号 番 号 番 号 番 号 番 号			
連絡先電話	【自宅・携帯・その他（ ）】			
就学予定校	立 学校			
現在の施設・学校				
家庭環境	続柄	氏名	勤務先・学校	
診断名	診断機関			
	医師名			
生育歴	(出生時) 体重 0			
	(新生児期)			
	(乳幼児期) 首のすわり:	か月	寝返り:	か月
	おすわり:	か月	はいはい:	か月
	始歩:	歳 か月	始語:	歳 か月
	二語文:	歳 か月	標準自立:	歳 か月
	(情緒・行動)			
	(既往歴)			
	(身体的特徴)			
就学に関する希望	本人及び保護者			

様式B  
願い・  
関係機関と  
の連携

様式B 個別の教育支援計画（関係機関との連携）

氏名 (上段：ひらがな表記、下段：漢字表記)	性別	記入者名		
	男・女	生年月日	平成	
		学年		
現在の生活・将来の生活についての願い				
【本人】	【保護者】			
必要と思われる支援				
関係機関での具体的支援				
家庭生活	学校生活	医療等	福祉等	その他
自由記述				
以上の内容を確認し、計画を支援関係者に開示することに同意します。				
平成 年 月 日			保護者氏名	印

### (3) 作成について

#### ア 手順

見立て

- ・ 担任の気づき、保護者からの相談
- ・ 前年度からの引継ぎ

保護者との共通理解

- ・ 保護者との面談

個別の教育支援計画作成

- ・ 保護者の聞き取り等をもとに作成
- ・ 校内教育支援委員会で検討、共通理解

支援の実施

- ・ 個別の支援計画の沿った支援の実施  
⇒ 個別の指導計画

評価、修正

- ・ 支援を行いながら、必要に応じて保護者と面談
- ・ 修正事項等の書き加え

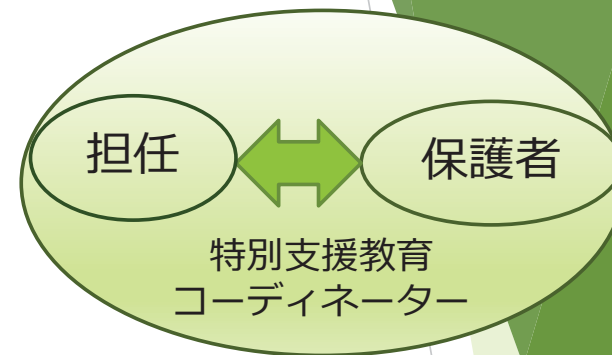
引継ぎ

- ・ 引継ぎ資料

担任

保護者

特別支援教育  
コーディネーター



# イ 内容及び作成例

様式B 個別の教育支援計画（関係機関との連携）

氏名 (上段：ひらがな表記、下段：漢字表記)	性別	記入者名		
A	男・女	生年月日	平成 年 月 日	
		学年		
現在の生活・将来の生活についての願い				
【本人】	【保護者】 ・はずかしがらずに大きな声で話せること、自分からあいさつできるようになってほしい。 ・集団の中で、みんなと同じことを同じようにできるようになってほしい。 ・体を動かして手足の力をつけてほしい。 ・気持ちのコントロールができるようになってほしい。			
必要と思われる支援				
話し方の練習をする。教師や友だちと一緒にあいさつをしたり話したりする経験を通して、自信がもてるようになる。 ・交流の学習を通して、周囲の様子を見ながら行動しようとする意識がもてるよう、声かけをする。一緒に活動が難しい時は、教師と一緒に個別に行う。 ・朝活動の運動で、手足を使う動きを取り入れていく。 ・気持ちについての学習を行う。また、気持ちが落ち着かない時は、クールダウンの時間と場を設け、落ち着いてからどうすればよいか一緒に考えていけるようにする。				
家庭生活	学校生活	医療等	福祉等	その他
母⇒平日 祖父母⇒土日	担任⇒授業 支援員⇒生活面 (休み時間)		教育相談(○年○月○○教室利用)	学童利用 (年度初めは、指導員に対して不安感をもって行くことを減らす様子が見られたが、話し合いを持ち徐々に改善。今は、抵抗なく行っている)
以上の内容を確認し、計画を支援関係者に開示することに同意します。				
				保護者氏名
平成 年 月 日				

保護者の  
思い

## 保護者の思い

- ・はずかしがらずに大きな声で話せること、自分からあいさつができるようになってほしい。
- ・集団の中で、みんなと同じことができるようになってほしい。

関係機関  
とのかわり

実態・思いを  
うけての必要  
な支援

## 必要な支援

- ・話し方の練習をする。教師や友だちと一緒にあいさつをしたり話したりする練習をして、自信がもてるようになる。
- ・交流の学習を通して、周囲の様子を見ながら行動しようとする意識をもてるよう声かけをする。一斉の行動が難しい時は、教師と個別に行う。

保護者の  
サイン

## (4) 活用方法

### ア 保護者との面談の際の資料

- ・ 保護者の思い（本人の思い）に変化がないか
- ・ 環境に変化がないか

### イ 教職員間の共通理解のための資料

- ・ 保護者の思い（本人の思い）
- ・ 必要な支援は何か
- ・ 関わっている機関はどこか

### ウ 支援の基盤として活用

### エ 関係機関への引継ぎ資料

家庭との連携

校内連携

効果的な支援

校外との連携

思いを大事に将来につなぐ

## 5 個別の指導計画について

### (1) ねらい

一人一人の困りに寄り添い、きめ細やかな支援を行うための支援目標、支援内容などを具体的に立てる

### (2) 対象児童

特別支援学級在籍児童	10名	} 44名
通常学級在籍児童	34名	

### (3) 作成について

#### ア 手順

見立て

- ・校内特別支援委員会で前年度からの引継ぎを共通理解
- ・担任の気づき

チェックシートで確認

- ・学習（話す、聞く、読む等）
- ・行動（不注意、多動性、衝動性）
- ・情緒（対人関係、こだわり）
- ・のどの部分で困っているかチェック

個別の指導計画作成

- ・引継ぎや実態をふまえて作成
- ・校内特別支援委員会で検討、共通理解
- ・支援体制検討会議で共通理解

支援の実施

- ・個別の指導計画に沿った支援

評価、支援の重点  
の見直し

- ・学期ごとの評価、支援の重点や手だての見直し

引継ぎ

- ・校内特別支援委員会で共通理解
- ・引継ぎ資料

# イ 内容及び作成例

どの部分で困っているか  
○で囲む

引き継いだ特徴

検査結果等の記録

学期ごとの支援の重点・手だて  
(誰が・どのように)  
学期ごとの振り返り

専門家チーム  
来校時のアドバイス

学 行 情 平成 29 年度 平泉小学校 個別の指導計画					
氏名	B		性別	年 組	
引き継いだ特徴	学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉指導の中で学習内容を理解するのは難しいと思われる。単位時間の中で個別指導をしたり、放課後に居残りや補充したりする必要がある。</li> <li>時間のかかることや苦手な学習活動になると、固まり、滞ってしまう。</li> <li>苦手な教科では、自分ではできないと否定的になることがある。</li> </ul>			
	行動面	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を非難されたり、注意されたりするとトラブルになることがある。</li> <li>注意された、できない、分からない、嫌だとすると、文房具を壊したりノートに絵を描いたりすることがある。</li> </ul>			
	情緒面 (こだわり等)				
検査結果	検査名	実施期日	結果	関わった関係機関 (医療・福祉)	
	知能検査	H○.○ H○.○	知能偏差値 ○ 知能偏差値 ○	1年間で育てたい力	
	学力検査 (CRT)	H○○.○	国語○ 算数○		
	心理検査	WISC-III H○.○ (町COが実施)	全IQ○ 言語性○ 動作性○ 言語理解○ 知覚統合○ 注意記憶○ 処理速度○		
今年度の支援目標					
学習面での支援	一斉指導の中でも自力で学習課題に取り組むことができる。				
行動面での支援	どんなことでも、あきらめずに最後まで取り組むことができる。				
情緒面での支援					
学期ごとの支援	支援の重点	手だて (誰が・どのように)		評価	
	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>やり残しゼロを目指す。</li> <li>既習漢字の習得。</li> <li>基本的学習内容の定着。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>座席は教師の側にする。(担任)</li> <li>どこまでやるのかゴールを提示し見通しをもてるようにする。途中経過も確認してきた部分を大いに褒める。(担任)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2人で決めたゴールまではがんばって取り組めるようになってきた。</li> <li>漢字がなかなか定着しない。</li> </ul>
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>やり残しゼロを目指す。</li> <li>既習漢字の習得。</li> <li>基本的学習内容の定着。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>座席は教師の側にする。(担任)</li> <li>どこまでやるのかゴールを提示し見通しをもてるように取り組めるようにする。途中経過も確認し、できた部分を大いに褒める。(担任)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>決めたゴールまでは取り組めるようになった。</li> <li>やり残しも減った。</li> <li>漢字は定着が難しい。</li> <li>好きな教科は意欲的に取り組めるが、苦手な教科等には、取り組みまでに時間がかかる。</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題をやり切ることができる。</li> <li>6年生までの漢字の習得。</li> <li>基本的学習内容の定着。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後の個別指導を実施する。(担任)</li> <li>やるべき課題、ゴールを明確にし、見通しをもてるように取り組めるようにする。(担任)</li> <li>途中経過を確認し、できた部分を大いに褒める。(担任)</li> </ul>		
専門家のアドバイス	学習(算数)が厳しい様子が見られる。5年生で行った知能検査の結果をもとに、有効な手立てを考えていくと共に、進学の際は本児の苦手さを丁寧に引き継ぐ必要あり。(H29.9専門家チームより)		保護者の意見		
引き継ぎ事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>効果があった支援方法</li> <li>継続すべき支援方法</li> </ol>				

## 支援の重点

- やり残しゼロを目指す。

## 手だて

- どこまでやるかゴールを提示して、見通しをもって取り組めるようにする。途中経過も観察し、できた部分を大いに褒める。

## 評価

- 決めたゴールまで取り組めるようになった。やり残しも減った。

引き継ぎ  
効果的な支援  
継続すべき支援

## (4) 活用方法

### ア 校内特別支援委員会で共通理解

- ・ 本人の困っているところの確認
- ・ 必要な支援の明確化
- ・ 効果的だった支援の引継ぎ

### イ 支援体制検討会議で共通理解

- ・ 支援方法の具体的な進め方の確認

### ウ 引継ぎ資料

- ・ 効果的だった支援の引継ぎ

担任・・・特徴を理解した支援  
学年・・・学年で統一した取組  
担任外・・・支援方法を参考にした  
かかわり  
支援員・・・方向性を理解した支援

校内連携

共通理解をしながら日々の成長につなぐ



## 6 活用実践例

### 個別の指導計画を活用した事例

- 3・4年時⇒分からなさからくる授業放棄、逸脱  
保護者との面談・・・家庭での様子の聞き取り  
ケース会議・・・学校での困りはどんな場面か  
校内特別支援委員会 }・・・教職員間で対応を共有  
支援体制検討会議
- 5・6年時⇒引き継ぎ事項をもとに、支援を継続

#### 5年時

##### 手だて

- ・いいところをさがしほめる
- ・めりはりをつける（やるべきことは最後まで教師と一緒に取り組む。苦手な漢字は意欲を損なわないよう励ます。少しでもできたらたくさんほめる。）

#### 4年時

##### 本児の困りは何か

- 学習が困難（漢字・作文・計算）  
⇒自信がない、どうしたらいいか分からない、めんどうくさい

##### 本児の得意なことは何か

図工（作ること）

##### 手だて

- ・支援員がそばにつく。（抜け出した場合は、さりげなくついていく。）
- ・ノートをとること。（量を決めて、雑でもOK。）
- ・問題の量を減らして取り組む。（ゴールの提示。）
- ・図工の時間にほめて自尊感情を高める。
- ・話をたくさん聞く。

できるようになったことが増えて自信につながり、  
落ち着いた生活を送っている。

# 平泉小教育支援の流れ



## 就学前における児童の引継ぎ等

- 幼稚園・保育所（3月末）
  - ・文書にて（要録等）
  - ・幼稚園・保育所の先生との話し合い  
対応：1年生担任（特別支援学級担任）
- 保健センター（3月末）
  - ・保健センター職員との話し合い  
対応：特別支援教育コーディネーター
- 教育委員会（3月末）
  - ・文書にて（支援シート・心理検査等の記録）

## 医療

地域の病院  
専門医療機関

## 町の教育支援委員会

就学についての検討

## 小学校

- 教育相談
  - ・スクールカウンセラー
  - ・特別支援教育コーディネーター
- 学校見学
  - ・中学校特別支援学級
  - ・特別支援学校
- 校内教育支援委員会

## 就学

教育委員会・町のコーディネーター

## 園

## 就学前

- 子育て支援センター（平泉保育所）  
**のびのび教室**  
就園前の子どもと保護者を対象にした、集団生活に慣れるための活動
- 保育園・保育所
- 幼稚園

保健センター

## 放課後等

## デイサービス

- NPO法人「子育て支援 いっすね」
- 一般社団法人「あふたーすくーる にじいろ」

## 福祉

- 児童相談所
  - ・療育手帳の発行（心理検査）
- 地域生活支援センター平泉
  - ・福祉サービス（放課後等デイサービスなどの紹介）

- 支援が必要な保護者との教育相談  
**ことばの教育相談**（年3回）  
町のコーディネーターによることばの相談（発達相談・心理検査）
- 町の教育相談**（年2回）  
心理士による教育相談
- 園への巡回相談
- 学校見学（随時）

- 支援が必要な保護者との教育相談  
**町の教育相談**（年2回）  
心理士による教育相談
- 専門家チームによる巡回相談（年2回）
- 心理検査（依頼を受けて）

- 健診による子どもの実態把握
- 支援が必要な児童の保護者との相談
- ・療育教室（気になる児童の保護者へ紹介、希望した親子対象に月2回程度実施）  
**おひさま教室**  
年齢別のクラスで集団遊びや個別指導を通して力を伸ばすための活動
- ・療育センターによる巡回相談（年4回。相談で保護者へ紹介、希望した親子対象）  
**育ちの相談**  
心理検査の実施、保護者へのアドバイス
- ことばの相談**

## 7 成果及び課題

### (1) 成果

- ア 個別の教育支援計画では、児童の将来をイメージすることにより、現在の具体的な支援方法を明らかにすることができた。
- イ 個別の指導計画では、対象となるすべての児童に作成し、活用することで、困っているところの共有、指導の統一性、効果的な支援方法の共有化が図られた。

### (2) 課題

- ア 関係機関との連携にかかわり、個別の教育支援計画の活用の仕方を検討していく必要がある。
- イ 個別の指導計画の活用については、その計画が常に実践されるよう、計画的に検証、改善していく場の設定が必要である。

ご清聴ありがとうございました

校舎としだれ桜



桜の下で桜給食

